

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275900122		
法人名	医療法人 慈優会		
事業所名	グループホーム日の出		
所在地	千葉県山武郡九十九里町片貝2582-9		
自己評価作成日	平成27年11月20日	評価結果市町村受理日	平成28年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成28年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海が近く、のびのびとした良い環境の中でご利用者様一人一人の思いや尊厳を大切にし穏やかで安全・安楽・今までの暮らしと変わりなく生活して頂く為に、経験豊かな職員全員がターミナルケアまで対応できる介護体制をとっております。又、施設に隣接する九十九里病院とも24時間医療体制も万全です。また、地域住民・認知症を在宅で介護をしているご家族の相談や愚痴などを気楽に話せる 認知症家族の会「あんとんねえさ〜」を地域専門職のボランティアと共に発足し、認知症の理解を得る活動をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの母体は医療法人であるため、隣接する病院との連携がよく取れている。夜間災害時には病院より8人のスタッフが応援にくるという取り決めもある。職員は研修に積極的に参加し、サービスの質の向上に努めている。利用者一人ひとりへの細やかなサービスを提供するために「日常生活意向確認表」(78項目のチェック)を独自作成するなど、管理者を中心としたスタッフの運営に関する姿勢は前向きである。また認知症家族の会や行政との連携も活発で地域交流会でも情報収集、発信に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット内に事業所独自の基本理念を揭示し、職員全員が理念を意識し、利用者への介護提供が出来るよう努めている。	法人理念をもとにホーム独自の理念をつくり、食堂に掲示し、意識するようにしている。ユニットカンファレンス等の場で共有し、日々の支援につなげるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭、運動会、産業祭へ積極的に参加し、地域の方との交流を図っている。	近隣の役場で行う「産業祭」には多くの利用者が参加をしており、また近隣小学生との交流も定期的に行うなど、地域との交流には力をいれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症家族の会に月1で参加し、認知症介護に関する相談などを受けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では外部評価後の報告をしている。又、日頃の取り組み状況、家族からの意見・要望を聞き入れ、サービス向上にむけている。	会議の参加者については多方面に声かけをして2か月に1回開催している。議題は多岐にわたっており、薬剤師を講師に迎えるなど工夫して実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場担当者、地域包括と日頃から連絡を密に取り、施設の空き状況、利用者の相談など協力関係を築いている	市の担当課及び地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席しており、積極的な意見交換が行われている。また、日頃から担当者には現状報告や相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず、いつでも外に利用者が出来るようにし、利用者への拘束、精神的な弊害をなくし、不安や不快を取り除く努力をしている。	ユニットカンファレンス時に、身体拘束をしないための研修を事例を挙げて学んでいる。気になる部分が見られた場合は職員同士でその場で確認しあっている。外に行きたいという利用者には行動を制限するのではなく、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修などに参加し、情報・知識を学び個々の人権を尊重し、常に虐待に意識を持ち、入浴時など身体の異変が無いか確認して早期発見に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、情報の伝達共有を行い、ケアに活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に十分に説明し、その都度、納得し契約するようにしている。また、随時疑問点なども聞き入れている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの窓口にご意見箱を設置。利用者、家族からの相談、苦情などの意見を受け入れ、書面に残している。	家族には毎月「居室担当からの手紙」と「ホーム便り」を送って利用者の状況を伝え、また、家族等が意見を言いやすい環境をつくるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議を月に1回行っている。会議以外にも毎朝行っている事務所へ申し送りに職員の意見・相談を聞き入れている	管理者は日ごろから職員とコミュニケーションをとるように努め、意見を聞くようにしている。ユニット会議などで出た意見は全体会議で検討して反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務希望(1ヶ月4回)を受け入れるようにし、働きやすい状況になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で定期的に計画されている院内研修に職員参加を促し、参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症家族の会「あんどんねえさ〜」に参加して、地域の方、同業者との交流する機会を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員から密に話掛けてコミュニケーションを取り、ご本人から不安を取り除いてあげ安心に生活が送れるよう信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時・入所後もご家族が現状 抱えている問題を持っているかに耳を傾けて信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入にあたり必要とされる支援を見極め、ケアプランに添っての対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存機能を考慮し、出来る事、食器拭きや洗濯物をたたんでもらったりしてもらい、食事・おやつなど一緒に過ごす時間を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者に職員の担当者を付け、ご家族が気軽に相談したりできるようにしている。又月末にご家族宛てに担当者からイベントの報告や利用者の近況報告・写真などお便りとして送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話での連絡、手紙などで関係が途切れない様 支援に努めている。	学校の友達や仕事をしていた時の職場の人との関係が続いている利用者もおり、関係継続の支援をしている。また、年賀状を出す支援や電話の取次ぎなども行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を観察しながら、食事時の席などを職員で話し合い、その都度対応している。又、他者とそりが合わない場合でも孤立しないように職員の配置に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて家族から相談、支援出来るようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話可能な方には会話を心掛け、本人の意志を尊重しながら安心・安楽に生活できるように努めている。	入所時にホームで作成した78項目からなる「日常生活意向表」に沿って本人の意向を聞き取っている。また、家族にも情報をもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人より趣味、嗜好を聞き職員間で情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタル測定を行い無理のない様、本人の出来る事をして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状態にあったケアプランを作成し、ケアを行う。問題が生じた時は、その都度サービス担当者会議を開き、対応するようにしている。	長期、短期目標を決めて定期的にモニタリングを行っている。必要に応じてサービス担当者会議を開き、現状に沿った介護計画書に作り直している。会議の内容や介護計画書は、職員全員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子を毎日記録に残し、月1回の定例会議時に問題点や改善点を話し合い、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況やご家族の状況を良く把握し、その都度、ニーズに合った柔軟な対応をするように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	契約時にご家族に同意を頂き、情報を公共機関に届け、ご本人が安全で安心な生活が送れるよう、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療所との連携、又、緊急時の速やかな病院との連携で対応、適切な医療を受けられるように支援している。	全員がホームの協力医をかかりつけとしている。月1回の訪問診療のほか、必要に応じて個人の往診を受けている。専門医の受診は家族に委ねているが、家族の都合がつかない時は職員が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で異常、気が付いた事を診療所の看護師に、随時、相談・報告をして指示を受ける様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連携を取り、退院までの間、毎日面会に行き、体調・経過を聞き情報交換が出来るよう努めて病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期になった時のご家族の思いを入所時に聞き、又、事業所で出来る事方針の説明を行い 実際、終末期になった時、再度、家族・医師・施設と話し合い、方向性を決めていくよう取り組んでいる。	入所時に終末期に対する意向を聞いている。重度化した時は再度家族と話し合い、終末期になった場合はホームの指針を説明し取り組んでいる。昨年は1件の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が上級救命講習を定期的に受講し、急変や事故発生時に適切な対応が実践出来るようにしている。又 施設内でも救命士を講師に呼び勉強会を行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定し、常に避難出来る様、半年に1回消防署の協力の下、避難訓練を行っている。又 隣接する病院の協力体制もできており、避難訓練時には病院からの応援要請をしている	消防署の協力を得て、半年に1回避難訓練を実施している。うち1回は利用者全員も参加して夜間想定訓練を実施した。夜間の災害時には隣接する病院から8名の応援が来てくれることになっている。また、備蓄品も倉庫に管理している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、以前の仕事や役割などを考慮し、誇りなど損ねないように声掛けするようにしている。	名前の呼び方なども入居する時にどのように呼ばれたいか意向を確認している。また、車いす用のトイレはカーテンになっているので、使用時には特にプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者が自己決定出来る様に話しかけ、又、耳が遠い方には筆談機を使用し、本人の希望に添える様にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所前に利用者の日常生活の流れを詳細に聞き、本人の生活のペースを崩さないように出来るだけ希望に添える様支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに関しては、本人にがしたいようにし、馴染みの美容室にも家族の希望があれば、行けるようにしている。特に希望が無い場合は、2ヶ月に1回の美容師の訪問で対応している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみに出来る様、味付けの工夫や盛り付け、温度などに気をつけている。利用者の出来る力を活かしながら、食事後のテーブル拭きや食器拭きなどを職員と一緒にしている。	食事は職員も一緒に皆で会話を楽しみながら食べるようにしている。母体の食材業者から調理済みの食品が運ばれてくるが温度や盛り付けに気を配って提供している。好き嫌いのある利用者には職員が工夫して提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとり一人の嚥下状態に応じた食事形態にして本人が食べやすい箸やスプーンを選ぶようにしている。又、食事量・水分量をチェックし、不足の時は、本人の好みのもので対応できるようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自力で口腔ケアできる方は居室にて、分割指示で行って頂きケア後の確認をする。介助が必要な方にはガーゼ・スポンジで口腔内をケアして口腔内の状態の把握をして、必要なら訪問歯科と連携を取り、受診に繋げている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日にわたり、時間でのトイレ誘導をし排泄のパターン、習慣化して、トイレでの排泄を促すようにしている	職員は「失敗したら洗濯すればいい」という気持ちで、利用者には日中はなるべく布の下着を着用してもらおうようにしてる。夜間帯はポータブルトイレも利用しながら、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝のラジオ体操や本人の力・体力に合わせて運動を促したり牛乳・ヤクルトなど飲み物の工夫などをし個々に応じた予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本2日～3日おきの入浴となっているが、本人の希望や体調に合わせて行うようにしている。	基本的に入浴日は決まっているが、無理強いはせず臨機応変に対応している。浴槽に自力で入れない利用者でも、二人介助でお湯につかれるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合わせ、リビング・居室など状況に応じて落ち着く場所で眠れるようにしている。又 空調管理などにも気を遣い安心して休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に1回の訪問診療時に利用者の状態を報告・相談をして主治医に薬を処方してもらい、同時に薬局にも参加してもらっている為症状の変化や内服状態なども相談できるようにしている。すぐに薬の用法や副作用なども相談できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に1回、季節に合わせたイベントを行っており、誕生月には、誕生会を行い、地域の催し物に参加したりして気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いつでも戸外に行ける様、玄関は施錠せず戸外に行くときは職員と一緒に行くようにしている。又近隣の施設や地域のイベントなどにも本人に希望を聞き出かける様にしている。	花見などの季節ごとの外出のほかに、近隣の役場で行う「産業祭」にも参加している。気乗りしない利用者にもできるだけ気分転換で外に行けるようにドライブなど工夫しながら支援している。	

グループホーム日の出

自己評価(Aユニット)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、事務所で管理して、必要時には(電話・おやつ・買い物)本人に渡し使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも施設内の公衆電話から本人が電話をかけられるようにしている。又 本人持ちの携帯も使えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内床は木材(フローリング)を使用しており、ぬくもりを感じられる様配慮している、又、季節によって、壁には張り紙などをして季節感を取り入れている。	玄関から廊下、食堂とゆったりした空間づくりをしている。畳のコーナーもあり利用者は自由に過ごせるようになっている。また、利用者が作った作品を展示して温かみのある環境を作り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時やお茶の時間など気の合う利用者同士で過ごせるように席次にも配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、本人が使い慣れた家具などを使用し居心地良く過ごせるようにしている	居室には広いクロゼットが備えられているが入所時に馴染みの家具の持ち込みを勧めている。利用者の身体状況に合わせてベッドの配置を変えるなど、居室ごとに工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が行える能力を活かす為、職員と一緒に洗濯物たたみ、食器拭きなどを行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所